

第四四章 キリスト再臨に先立つ出来事

I 今の時代の主要な出来事

いまの恵みの時代が展開して行くにつれて、多くの預言が成就しつつある。この時代の全般的な性格は、マタイの福音書 13 章の 7 つのたとえ話に描き出されている。ここでは、キリストの初臨から再臨までの全期間のことを、携拳や、細かな部分に言及する事なしに語っている。

1 種を蒔く者のたとえ（マタ 13：1-9、18-23）

導入的な性格をもつ。神の真理のさまざまに異なった受け取り方が描かれている。

2 麦の中に蒔かれた毒麦のたとえ（24-30、36-43）

収穫のときまでさばかれない偽りの信仰告白の危険を示している。

3 からし種のたとえ（31-32）

キリスト教界が小さな始まりからやがて大きな運動にと急速に成長して行くことを示す。

4 パン種のたとえ（33-35）

良い粉にまぜられた悪が、やがて全体に浸透することを示す。

5 隠された宝（44）

今は実在の国家としては隠されているが、キリストの死によって買い取られたイスラエルを指しているのであろう。

6 すばらしい値打ちの真珠（45-46）

キリストがそのために死んでくださった教会のことを語っていると思われる。

7 地引き網のたとえ（47-51）

今の世の終わりに救われた者と救われていない者とが分けられるさまを描いている。

さらにマタイの福音書 24 章にも、似たような描写が見いだされる。4-14 節に終わりの時の 8 つのしるしが与えられている。

1 多くの似せキリスト者たち（5）

2 戦争と戦争のうわさ（6）

3 ききん（7）

4 地震（7）

5 殉教者たち（9-10）

6 にせ預言者たち（11）

7 不法がはびこり、多くの人々の愛が冷える（12）

8 御国の福音の全世界への宣教（14）

いまの時代のもう一つの特徴は、信仰を告白している教会内で、実際には救われていない者たちの背教が増加することである。ペテロの手紙第二 2、3 章はこの進展を 4 つの分類にまとめている。

1 キリストの人格と神性の否定（2：1）

2 キリストが十字架上で死なれたとき、私たちが贖って下さったというみわざの否定（2：1）

3 道徳的基準から逸脱することによる道徳的墮落（2：2-22）

4 キリストの再臨とそれに関するさばきの教えから離れること（3：1-13）

背教については他の新約聖書の中にも記されている。そしてこれらは第一世紀から成就されつつ現在に至っているが、最終的な背教は携拳の後に起こるであろう。この時代は教会の携拳というかたちで突然に終わりに至るであろう。(Ⅰコリ 15:51-58、Ⅰテサ 4:13-18) その後、キリストが再臨され千年王国を設立されるまでの主要な出来事のための舞台を整えることになる。この間に3つの主要な期間がある。①準備の期間、②平和の期間、③迫害の期間である。

Ⅱ 携拳に続く準備の期間

1 信仰を告白しているだけの教会は地上に残るであろう

信仰を自称している教会は携拳から取り残され、真のキリスト教教理の贖いの特色を欠いた世界教会、世界宗教へと向かう動きとなるであろう。この教会は黙示録 17 章の淫婦に象徴される。

2 イスラエルには信仰復興のときとなるであろう

ロマ 11:25 によればイスラエルのかたくなさは緩和され、多くの者がキリストに立ち返るであろうことが示されている。こうして回心したユダヤ人が宣教師として多くのユダヤ人、異邦人をキリストに導くであろう。

3 政治的には異邦人との関連で準備のときはローマ帝国の再興を含む

ダニエル書の足と 10 本の角に象徴されるローマ帝国が復興する。これは地中海沿岸の諸国（北アフリカ、西アジア、南ヨーロッパの主要国家）を含むのであろう。

Ⅲ 平和な期間

来るべき君主（ダニ 9:26）はイスラエルと 7 年間の契約を結ぶ。この期間はイスラエルにとって平和なときとなる。神殿が建てられ、いけにえが復活する。この時代はその半ばにして契約が破棄され、終わりを告げる。

Ⅳ 迫害の期間

契約破棄の後の 3 年半は「ヤコブにも苦難の時」と言われている期間が始まる。そして、この時代の終わりにキリストが再臨され、千年王国を建設されるのである。